

# 特集

# 救急コースガイド2018

わが国の医学教育・医療研修の分野に人材育成を目的とした off-the-job-training (Off-JT) が導入されて久しい。この10年間で学習者を中心とする多種多彩な教育・研修プログラムが Off-JT として百花繚乱のごとく咲き乱れた。一見して同じ“花”には見えないものの、それでも「標準」という根底概念に関しては共通している。

医療系 Off-JT における「標準」を、日本工業規格を参考にすれば、①患者や医療関係者の間での利益または利便が公正に得られるように、②統一され、③単純化を図る目的で、④介入結果およびそれ以外（組織、責任権限、システム、方法など）について定めた取り決めと言い換えることができるであろう。

本特集では、医療系 Off-JT の特徴や魅力を伝えるため、標準化の特徴である横断的整合性や他領域連携の有無にはあえて触れず、プログラムの特色を中心に紹介している。掲載した Off-JT は、数多ある教育・研修プログラムのなかから選定基準（右記）を参考にして編集委員会が選定したものである。多くのプログラムを紹介したいという意見から、そのエキスを味わっていただけるように見やすさを重視し、表現は簡潔にして、コンパクトなレイアウトを目指した。結果として、救急医療系 Off-JT のカタログのようなコースガイドが完成した。

日本専門医機構による新専門医制度開始に伴い、学会認定専門医制度との相違点が明らかになってきた。例えば、救急科専門医の場合、現在も一部の Off-JT が認定・更新の業績として認められているが、新専門医制度においてはこ

れまで以上に多くの Off-JT の業績が認定されている。これについては読者の関心も高いはずであろうから、専門医制度に関連する資料として個別に取り上げた。

いずれの Off-JT も効果的に、また効率的に学習の促進を図ることはもちろんのこと、コースとして魅力的なデザインが工夫されていることにも気づかされる。まずは本書の「読み方・活用法」をご確認いただき、「目次」から興味のあるものを拾い読みして、有益な情報を1つでも多く獲得していただきたい。本書が皆さまの知的好奇心を刺激し、思いもよらぬ領域・分野とのファーストコンタクトとなることを願ってやまない。

〔本特集号に掲載した Off-JT の選定基準〕

- ・日本国内で受講可能な研修会・セミナーなどであること
  - ・救急分野に関連した研修内容であること
  - ・過去1年間の開催実績が確認できること
  - ・テキストやガイドラインなどの資料が入手できること
  - ・研修コースの名称・略称から、その内容が推測しがたいこと
  - ・受講実績が専門医制度に反映されること
  - ・その他、編集委員会が必要と認めるもの
- ※弊誌編集委員会による

『救急医学』編集委員会  
企画担当委員：岩手県立磐井病院麻酔科  
須田 志優

本特集では原則的に、取り上げたすべてのコースを同じフォーマットの見開きページで紹介しています。各コースの紹介を読む前に、まずはここで表記の統一ルールやアイコンの意味などを確認し、適切に情報を吸い上げ、役立てていただけるよう、「読み方・活用法」としてまとめました。

■コースの名称、基本情報■

各コースの基本情報として、正式名称・略称とその読み方から、主催団体やコース開始年などをまとめました。普段から耳にしている・口に出している略称だけでなく、正式名称やその意味についても、ここで確認しておこう。

■データチャート■

各コースの規模を5段階評価のレーダーチャートで視覚的にまとめました。この評価はあくまで掲載情報をもとに弊社編集委員会が作成したものであり、コースの良し悪しを示したものではありません。

費用：高い←1・2・3・4・5→安い  
時間：短い←1・2・3・4・5→長い  
エリア：狭い←1・2・3・4・5→広い  
(受講可能地域が)  
頻度：低い←1・2・3・4・5→高い  
多職種：限定←1・2・3・4・5→自由  
(参加可能職種が)

■受講可能エリア地図■

各コースの受講が可能とされるエリア、コース開催歴のあるエリアを地図で示しました。色が付いているエリアでは、そのコースの受講が可能です。実際に自分が参加できる地域でコースが開催されているかをチェックしよう。なお、詳細な開催地は各コースのホームページなどを確認してください。

■所要時間&アイコン■

コース受講に要する時間をアイコンで表現しました。

時計：  
時間単位表示（1つ12時間）  
日めくりカレンダー：  
日単位表示  
となっています。

■発刊物情報■

テキスト、ガイドブックなどコース関連書籍の情報。受講時に必要なテキスト、あるいは予習・復習に必携の参考書をチェックしておこう。なお、各書籍の在庫の状況・価格・入手方法などについては発行元の出版社などへ確認してください。

■コースの目標と概要・エッセンス■

何を目的としたコースで、どんな目標を掲げているのか、そのためにどのようなプログラムが組まれていて、どのような特徴があるのか、実際のコースの“エッセンス”が記されています。参加する前にしっかりチェックして、コースへの理解を深めよう。

■研修分野タブ■

各コースの研修分野が一目でわかるように、端的に表現されています。自分が興味のある分野のコースを探すときに役立てよう。

■コース対象タブ■

あなたの職種がそのコースの受講対象かどうか一目でわかるように、対象職種をタブで表示しています。表記ルールは以下のとおりです。

- 医：医師  
看：看護師・准看護師  
薬：薬剤師  
放：診療放射線技師  
検：臨床検査技師  
救：救急隊員・救急救命士  
消：消防職員  
警：警察官  
自：自衛官  
学：学生  
他：とくにその他の職種を含む

■QRコード■

スマートフォンなどで読み取れば、各コース独自のホームページや、主催団体のホームページに直接リンクできます。

■専門医資格・更新等との関連■

専門医・認定医資格などの取得・更新要件となっている場合には、その資格名を示しています。ただし、要件の詳細や最新の情報・状況は、必ず関連学会・団体に確認してください。

■問い合わせ先■

興味をもったコース、参加したいコースが見つかったら、ここを参照して、より詳細な情報を入手しよう。なお、各コースの詳細についてはへるす出版編集部へお問い合わせいただいても回答いたしかねますので、ご注意ください。

The screenshot shows the JPTEC website interface. At the top, it says 'since 2003 JPTEC ジェイピーテック Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care'. The main heading is '外傷救護のファーストレスポンスから救急隊員、医療機関関係者を対象とした、わが国の医療体制に適合した外傷傷病者対応のスタンダードコース'. Below this, there are several sections: 'コース種別' (Course Type), 'コース対象' (Course Target), '受講料' (Tuition), '所要時間/e-learning' (Required Time/e-learning), '資格認定' (Qualification), and 'お問い合わせ先' (Contact Information). A vertical navigation bar on the right side of the page lists various professions: 外傷 (Trauma), 医 (Medical), 看 (Nursing), 薬 (Pharmacy), 放 (Radiation), 検 (Inspection), 救 (Rescue), 消 (Fire), 警 (Police), 自 (Self-defense), 学 (Academy), 他 (Others).

File:31

since 2003

# JPTEC

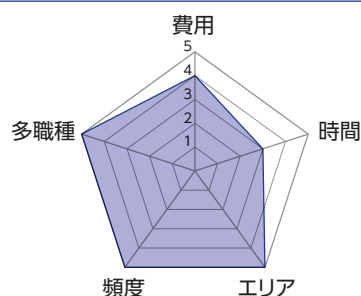
ジェイピーテック Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care



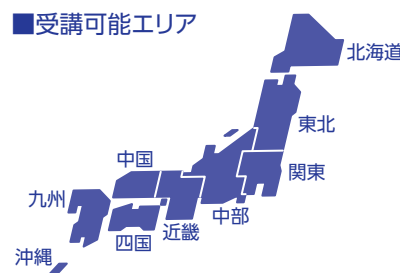
外傷病院前救護ガイドライン

■主催：JPTEC 協議会

## 外傷救護のファーストレスポnderから救急隊員、医療機関関係者を対象とした、わが国の医療体制に適合した外傷傷病者対応のスタンダードコース



### ■受講可能エリア



### ■開催数(平成28年度)

プロバイダーコース	: 320回
プロバイダー更新コース	: 265回
インストラクターコース	: 48回
ミニコース	: 18回
ファーストレスポnderコース	: 34回

### ■延べ受講者数(平成28年度まで)

プロバイダーコース	: 104,249名
プロバイダー更新コース	: 20,025名
インストラクターコース	: 16,570名
ミニコース	: 171名
ファーストレスポnderコース	: 743名

### ■コース種別

- プロバイダーコース
- プロバイダー更新コース
- インストラクターコース
- ミニコース
- ファーストレスポnderコース

### ■コース対象 (受講要件の詳細はホームページなどを参照のこと)

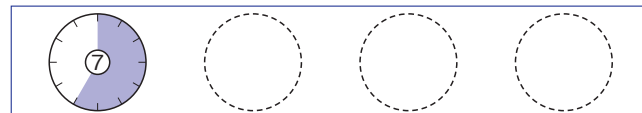
プロバイダーコースの受講対象  
消防隊員、救急救命士、医師・歯科医師、看護師・准看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、警察官、自衛官、学生

### ■受講料

5,000~15,000円 (コースによって異なる)

### ■所要時間/e-learning

7時間以上 (複数日にわたって開催するコースもある)  
e-learning : あり (座学の一部として)



### ■資格認定

認定者数: 38,716名 (うちインストラクター 6,614名)  
※2017年12月末時点での有効認定者数

認定料: 2,000円

試験: 筆記・実技

有効期間: プロバイダー: 3年, インストラクター: 2年

### ■専門医等の資格取得・更新要件として

日本救急医学会救急科専門医

日本登山医学会認定山岳医

### コースの目標

プロバイダーコースの到達目標は、わが国における防ぎ得た外傷死 (PTD) を減らすことを目的として、外傷死亡の実態や外傷診療システム・ロード&ゴーの概念を理解し、外傷現場における観察と判断、処置を適切かつ迅速に実施できるようになることです。

具体的には、外傷現場において適切かつ迅速な観察を行い、ロード&ゴーの適応を判断し、生命危機にかかわる処置のみを行って、5分以内に現場を出発すること。および、適切な処置が行える医療機関に、適切な搬送手段を用いて早期に搬入する方法を学ぶための教育プログラムです。

### コースの概要・エッセンス

プロバイダーコースの内容を基本として、各コース受講者の背景に合わせた指導内容となっています。

#### 【プロバイダーコース】

●開催時間: 7時間以上

●座学の学習内容

- 1) 外傷総論: 外傷の疫学, JPTEC (ロード&ゴー) の概念, 外傷システム
- 2) 観察処置総論: 外傷傷病者の観察処置の流れ, デモンストレーションと解説
- 3) 観察処置各論: 状況評価, 初期評価, 全身観察, 局所観察, 詳細観察, 継続観察

●実技の学習内容

- 1) 観察要領: 初期評価—全身観察—詳細・継続観察
  - 2) 気道管理
  - 3) ヘルメット離脱
  - 4) 頸椎カラーの装着
  - 5) ログロール
  - 6) (腹臥位からの) 体位変換
  - 7) 全身固定
  - 8) 処置: フレイルチェスト, 開放性気胸, 腸管脱出, 穿通性異物, 骨盤骨折, 止血
  - 9) 車外救出
  - 10) シナリオステーション: 状況評価から詳細・継続観察まで
- ※座学・実技の学習内容に付加することは妨げないこととなっています

#### 【ミニコース】

●コンセプト: チーム医療の一環として病院前の外傷救護活動を体験・理解することを目標とし、経験を重要視しています

●開催時間: 3時間30分以上

●受講対象: 18歳以上の病院内医療従事者や救急救命士学生など

●学習内容: 状況評価から車内収容までの実際を、デモ揭示および実技

実技: 観察要領 (初期評価—全身観察), ログロール, 脊椎運動制限・解除, (腹臥位からの) 体位変換, 頸椎カラーの装着, 気道管理, 緊急処置 (フレイルチェスト, 3辺テーピング, 腸管脱出, 穿通性遺物固定, 骨折肢の処置, 止血)

#### 【ファーストレスポnderコース】

●コンセプト: 「手ぶらで行える JPTEC」として、救急隊員などに引き継ぐまでの外傷傷病者対応を JPTEC の理論に基づいて学びます

●開催時間: 2時間30分以上

●受講対象: 18歳以上であれば、医療に関するバックグラウンドにかかわらず受講可能

●学習内容: 講義および実技  
講義: 外傷総論, 法的問題, 心理的問題, 傷病者対応要領

実技: 基本手技 (気道確保, 頸椎保護, 圧迫止血, ログロール, 刃物などの固定), 傷病者評価要領, シナリオステーション (状況評価—傷病者観察)

### 問い合わせ先

JPTEC協議会事務局

〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3 株式会社へるす出版内

TEL.03-3384-7448 FAX.03-3380-8627

ホームページ: <https://www.jptec.jp>

mail: [hombu@jptec.jp](mailto:hombu@jptec.jp)



### 改訂第2版 JPTECガイドブック

■2016年 ■へるす出版 ■3,500円(税別)

JPTEC外傷のためのファーストレスポnderテキスト

■2016年 ■へるす出版 ■500円(税別)

改訂第2版 JPTECインストラクターテキスト

■2017年 ■へるす出版 ■2,400円(税別)

